

首都圏大曲会会報 第32号

ふるさと大曲

題字 澁谷一男

令和4年9月発行 発行所：〒162-0054 東京都新宿区河田町6-6 教育情報プロジェクト気付 首都圏大曲会事務局
電話 03(3341)6339 FAX 03(6273)0081 eメール：info@e-prosjp.com http://www.supportlife.com

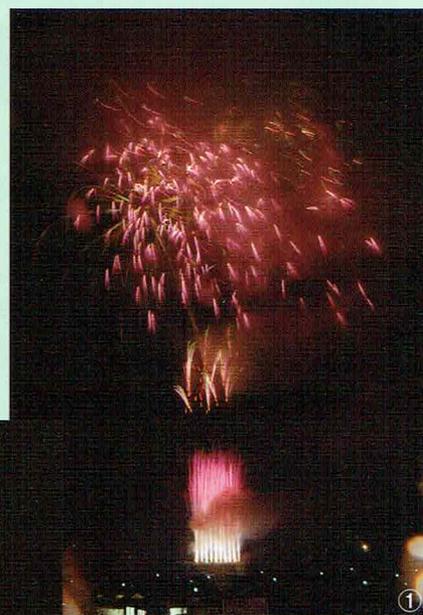
①創造花火の部優秀賞・響屋大曲煙火(株)「晩春に咲き誇る藤棚しなやかに舞う」
②内閣総理大臣賞・(株)マルゴ「昇曲付 三重心変化菊」、③大会提供花火「暁光」



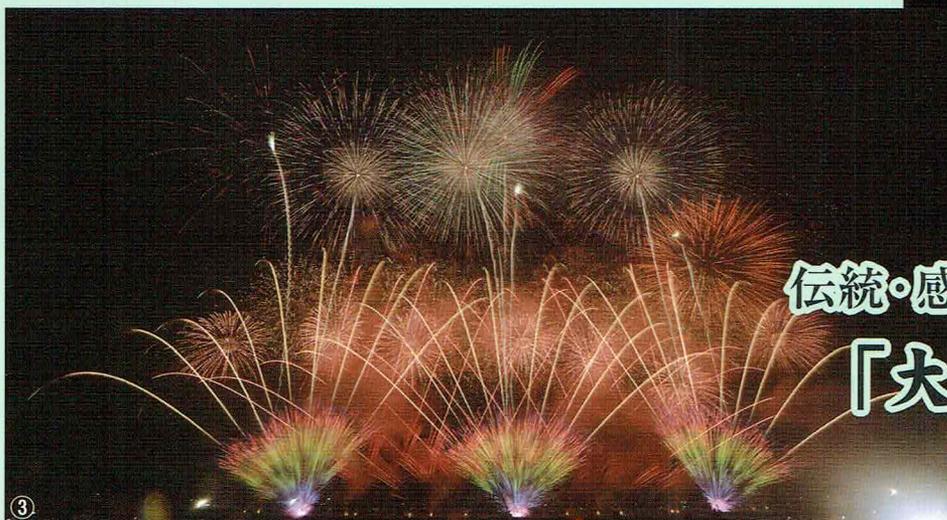
②



難波田城公園(埼玉 富士見市)の古代蓮



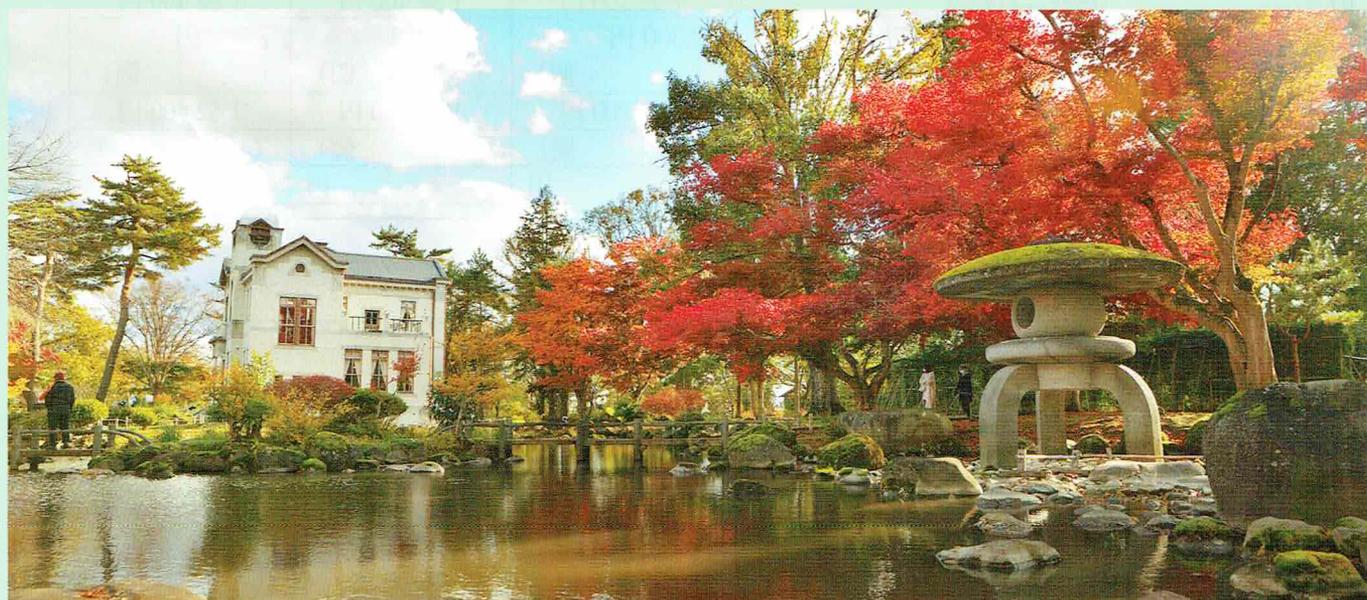
①



③

伝統・感動 郷愁を誘う
『大曲の花火』

首都圏大曲会



国指定の名勝「旧池田氏庭園」の池・紅葉が映える。国内最大級の雪見灯籠や大正浪漫漂う白亜の洋館が見える

「新米のアキタコマチ」をお召し上がりください。

秋田県特別栽培農産物認証

アキタコマチの田植えをする生産者・佐藤久男さん



うちしろきん
内城菌パワーで
こだわりの
有機米
『アキタコマチ』
安全・安心
食感が自慢です。

「アキタコマチの新米は本当に美味しい。今年の収穫が待ち遠しい」と、今井通子様と石川直美様の仲良し親子です。

(神奈川県横浜市港北区)



「佐藤久男さん
生産のアキタコ
マチは、春夏秋
冬、いつ食べて
も美味しい」と、
肥後ミツ様。
(千葉県八街市)



「こだわり米のアキタコマチ」 注文Fax番号: 0187-62-5614

*新米の発送は10月中旬になります。

ご注文の方は、どうぞFaxでお申込みください。

お申込みの個所を○でお囲みください。

特別栽培こだわり米	5 kg袋	10 kg袋	20 kg袋
①減農薬 化学肥料不使用 (内城菌有機肥料のみ散布土壤)	3,000 円 (個)	5,000 円 (個)	9,800 円 (個)
送料ご負担分	1袋 200 円	1袋 400 円	1袋 400 円
②減農薬 化学肥料40%使用 (内城菌有機肥料+化学肥料散布土壤)	2,300 円 (個)	3,800 円 (個)	7,500 円 (個)
送料ご負担分	1袋 200 円	1袋 400 円	1袋 400 円
ご注文合計数	(個)	(個)	(個)
品物+送料合計	円	円	円

ご住所⇒ 〒

お名前⇒

電 話⇒

◆販売量に限りがございます。売切れの節はご容赦願います。

○お問合せなどのご遠慮なく、お電話かFaxでお寄せください。

〒010-0103 秋田県大仙市高関上郷字高屋敷42 生産・販売者 佐藤 久男

電話 0187-66-1702 Fax 0187-62-5614

首都圏大曲会

会費のお振込みに
ご協力ください。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、首都圏大曲会をはじめ各ふるさと会ともに活動を制限せざるを得ないことは、ご承知の通りです。その厳しい条件の中、首都圏大曲会は、会報「ふるさと大曲」の会報発行を通じて、会員はもとより地元の方々との変わらぬ絆を深めることが出来ました。それは会員のみな様からの会費納入のご協力がすべてです。会費は、ふるさとを愛する首都圏大曲会運営に欠かすことの出来ない資金です。よろしくご理解、ご協力ください。

会費 一家族(何人でも可)千円
納入法 ゆうちよ銀行
ゆうちよ銀行(郵便局)に口座をお持ちの方は、郵便局の窓口で振込用紙を受け取り、振込み先記号 113330
口座番号 20455001
受取人名は「首都圏大曲会」とすれば送金出来ます。

◇都市銀行などの金融機関
店名【店番】 1388(りそな銀行)
預金種目 普通預金
口座番号 2045500

首都圏大曲会会報『ふるさと大曲』第32号 目次

大仙市首都圏ふるさと会懇話会開催 4

老松市長「大仙市の新たな取組み」の説明

第94回全国花火競技大会「大曲の花火」
三年振り 重厚・絢爛に開く! 8

大仙市市役所訪問 観光文化スポーツ部観光振興課 10

——大仙市の観光施策と方向性を明確にする——

◇寄稿
「卒寿紀行」——わが若き日の思い出 首都圏大曲会会員 小西 國男 14

◇大仙市で一度は訪ねて見たいところ
国指定名勝「旧池田氏庭園」 18

◇首都圏大曲会 報告 23

追悼 ああ高階光義さん 佐藤 重光 22
同級会へのエール 17
年輪の絆深めて百まで生きる
大仙市の話題 21・24
思い出の中の大曲 26
編集後記 26

(写真・編集資料提供協力 大仙市、佐藤重光・田口恵子・齊藤和子・庄司靖子・小川 康 以上敬称略)

地域の
元気の
お役立ち♪



株式会社 タカヤナギ

Tel. 0187-62-1234 (代)
http://www.e-takayanagi.com

新型コロナ禍から3年振りに

大仙市首都圏ふるさと会懇話会開く

老松市長が挨拶 8ふるさと会幹事つどう

3年振りの懇話会は、今回の幹事役・首都圏仙北町ふるさと会小松幹事長の司会で行われた。各ふるさと会からの活発な意見が飛び交い盛会だった



中国・武漢から端を発したと言われ、パンデミックと化した新型コロナウイルスは、発生後もオミクロンなど新種株に変化して世界を恐怖に陥れました。未だ収束の兆しは見えませんが、この間世界的な経済恐慌をもたらし、社会生活も滞って計り知れない影響を与えております。私たちがふるさと会の活動も感染予防のために停滞し、総会初め会員が集って懇親を深めることも出来ませんでした。首都圏大曲会としても夏の総会の他

老松市長の現況ご報告から
大仙市の新たな取組み「若者チャレンジ応援プロジェクト」など

に、毎年二月の開催で楽しみにしている「東京で、大曲の花火」を観て、みんなでカラオケを楽しむ会」も開催

を見送るなど、この二年間、会員からの要望はあっても開催出来ずに過ごしてきました。唯一、年二回発行する会報「ふるさと大曲」で、会員や地元大仙市とのコミュニケーションを取って来たこととなります。

新型コロナウイルス第六波が下火になったところで、今回当番の首都圏仙北町ふるさと会を中心に、まずは休止していた「大仙市首都圏ふるさと会懇話会」を開催しようという話を持ち上がりました。大仙市ふるさと会を担当する移住定住促進課とも相談して、七月二日正午から二時間、各ふるさと会2名出席の設定で、三年振りの開催となりました。首都圏仙北町ふるさと会並びに大仙市役所に感謝致します。懇話会には、大仙市役所から新型コロナウイルス禍の中にも関わらず、老松市長、熊木雄一秘書課長、ふるさと会を担当とする移住定住促進課の高橋進課長、進藤加奈恵主査が出席してくださいました。

大釜会長
大友副会長が出席

首都圏大曲会からは、大釜会長と大友副会長が出席しました。会議には旧市町村別8ふるさと会の幹事が出席、幹事当番の仙北町ふるさと会小松幹事長の司会で、昼食を挟み正午から開始されました。

初めに老松大仙市長から、ご挨拶とともに、新型コロナウイルス禍の中の大仙市の近況と、「これからの大仙市の新たな取組み」をテーマに、別掲のように6項目に分けての報告と説明がありました。これは、新型コロナウイルス

 大曲商工会議所

会頭 佐々木 繁治

〒014-0027 秋田県大仙市大曲通町1-13
【本部事業部】TEL 0187-62-1262
【花火振興事業部】TEL 0187-88-8073
URL : <https://www.omagari-cci.com>



老松大仙市長が、ご挨拶とともに大仙市の現況と、新構想が盛り込まれた「大仙市の新たな取り組み」を、力強く報告された(東京・アルカディア市ヶ谷で)

ルスに席卷されている中で、目の先の事象に捉われない未来を模索し、かつ的確に見据えた政策で、市民はもとより大仙市を故郷とする私たちふるさと会にとつても、新しいこれからの時代の価値観を捉えた極めて力強く、頼もしい構想として心に残る内容でした。

二時間と制限されていたために、議論し尽くされたいはありました。三年のプランクを埋めて余りある有意義な懇話会でした。

各会とも、会員の老齡化対策が課題

いずれの会も問題とすることは、会員の老齡化に伴う会員減少でした。交通機関や情報伝達手段の発達で、これまで通りのふるさと会の活動内容では、会員の満足は得られないことが察せられます。しかし時代は変わっても、生まれ故郷を慈しみ、愛する気持ちが変わるはずはありません。時代は「集中」から「分散」へと移行しています。時代の変化に鋭敏に反応

し、活動の目的や行動そのものを変化させていく必要があります。首都圏大曲会はもとより、各ふるさと会においては、老松市長のご報告「大仙市の新たな取り組み」の主旨に添ったふるさと会活動を、具体的に取り入れた活動が望まれます。

老松市長の報告趣旨

1. 地方創生への挑戦

■文化財等を活用した新たな活性化構想の策定
文化観光都市としての魅力の創出と地域の活性化

○観光と連携した「文化財保存活用地域計画」の策定

○まちづくり等も含めた総合的な文化財の保存・活用

○本市の文化財や史跡・名勝を地域活性化の源泉に

2. 子育てしやすい環境づくり

■県内トップレベルの「育む」環境づくり推進
子育て世帯等への様々な支援の充実

○新たに2歳児の保育料の無償化をスタート(県内初)

○保育所・放課後児童クラブの新設及び増設

○基幹(地域拠点)公園の機能充実

○「子ども食堂」などの居場所

づくりを推進
○ヤングケアラーなどの実態調査と支援体制の構築

3. 若者がチャレンジできる環境づくり

■若者のチャレンジを全力で応援
「若者チャレンジ応援プロジェクト」がスタート

○「若者チャレンジ応援補助」の創設

・クラウドファンディングを活用した支援制度

・3タイプに対応した支援(チャレンジ、課題解決、ユースチャレンジ)

○「だいでんLabo」の開設

○「人」「組織」「情報」をつなぐハブ機能の役割を担う

4. 地元企業の振興と企業誘致の強化

■企業誘致の強化と企業団地の整備

「新たな企業団地」の整備

○第2期整備に伴う地形測量、用地測量、実施設計等

第1期分(約4ヘクタール)

令和3年 造成完了

令和4年 分譲開始(3社が出入予定)

第2期分(約4ヘクタール)の整備事業がスタートしたばかり

第3期分(約2ヘクタール)

5. ともに支え合い誰もが活躍できる地域作り
■地域拠点の機能・魅力の向上による活性化

「彩色千輪プロジェクト」の始動

○彩色千輪・大仙市の8地域それぞれが活性化することで、市全体の活性化につながることを花火でイメージ

令和4年 全体構想と実施事業の協議

令和5年 拠点の改修等(ハード事業)

令和6年 拠点を活用した活性化策(ソフト事業)

伝統の銘酒

刈穂

http://www.igeta.jp/
e-mail info@igeta.jp

大地の恵みとともに
秋田の心を醸す

雪蔵銘醸

出羽鶴

秋田清酒株式会社

秋田県大仙市戸地谷字ケ沢八三の一
*お酒は二十歳以上から、お酒はおいしく飲むを。
*妊婦中や授乳期の飲酒はお控えください。

TEL 0187 (63) 1224
FAX 0187 (66) 2277

●拠点：大曲地域の「はなびアム」、西仙北地域の「大綱交流館」、南外地域の「南外さいかい市」、仙北地域の「ふれあい文化センター」、協和地域の「協和市民センター和ピア」、神岡地域の「かみおか道の駅」など。

■健康寿命延伸に向けた取り組みの推進

- 「健康まちづくりプロジェクト」のさらなる充実
 - インセンティブ拡充の「健康ポイント事業」の実施
 - 連携協定企業・大学との共同による健康イベントの開催
 - 8地域の健康ウォーキングコースマップの作成
 - 健康スポットの導入補助による環境整備
- 令和4年6月15日現在
参加者数 23,066人
参加企業数 310社

■地域資源を活かした新たな観光開発

- 東部エリアの自然を活かした新たな観光ビジョンの策定
- 真木真昼県立自然公園等の魅力的な地域資源を活用
- 大自然の中の体験型アウトドアコンテンツによる観光開発
- 大台スキー場とその周辺の新たな賑わいの創出

6.成長戦略の推進

■デジタル変革の加速

- 「行かなくても済む市役所」を目指して
 - 大型ショッピングモール内のサテライトオフィスの運営
 - 市窓口でのキャッシュレス決済の導入
 - マイナンバーカードを利用したコンビニ等での証明書交付
 - サービス・オンライン申請
 - サービスの導入
- *マイナンバーカード交付率

全国 45%
(令和4年6月19日現在)

秋田県 42%
大仙市 47・1%
県内13市中2番目の交付率

■グリーン社会の実現

- 2050年 カーボンニュートラルに向けて
- 「第2次大仙市環境基本計画」を策定(令和元年)
- 「大仙市ゼロカーボンシティ宣言」を表明(令和4年)

大仙市ゼロカーボンシティ宣言

- エネルギー使用量の削減
- ・住宅・建築物の省エネ化
- ・次世代自動車の普及促進
- 再エネの最大限導入
- ・地産地消の再エネ導入
- ・多様な地産資源の活用
- 大仙市地球温暖化対策計画策定
- ・地域再エネ導入目標策定

SDGs 未来都市の実現にむけて

Well-beingに溢れる持続可能な街の形成

- SDGs 未来都市
- SDGsの理念に沿い、特に経済・社会・環境において持続可能な開発を実現する都市
- Well-being：人が身体的・精神的・社会的に良好な状態

秋田県内二番目のSDGs 未来都市に選定される

令和4年5月20日、内閣府で行われた「SDGs 未来都市」選定証授与式で、野田聖子地方創生担当大臣から、選定証が授与されました。令和4年度の秋田県内からの選定は大仙市一市のみでした。

これは仙北市に次ぎ、秋田県内では2例目となります。

首都圏大曲会から 大仙市へ要望

「ふるさと貢献」に添うDX環境整備を

懇談会を前にして、今回幹事役を務めた首都圏仙北町ふるさと会(小松一彦幹事長)では、現状におけるふるさと会活動に

際しての、大仙市への要望を募りました。そこで首都圏大曲会として、①会の信条とする「ふるさと貢献」活動を具体的、積

極的に推進するために、地元情報に極めて貴重。従って担当部署の移住推進促進課を初め、市役所各部署のご協力をお願いと、②では、大仙市のまちづくりにおけるDX戦略(デジタルを活用した業務の変革)の現状を知りたいの2点に絞りました。

行政においてデジタル化は喫

緊の課題として注目されています。老松市長は大仙市の現状報告の中で、成長戦略として「デジタル戦略の加速」で、「わざわざ市民が直接市役所に向かなくても済む市役所」を目指すなど、現在進めているDX戦略を具体的に説明してくださいまし

外国人技能実習生受入団体

だいすき協同組合

代表理事 赤木 達司

TATSUSHI AKAGI

携帯/090-1353-7455 E-mail/dc284752@kg8.so-net.ne.jp

□東京本部
〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1丁目39-7 ライオンズステーションプラザ 三軒茶屋604
TEL 03-6320-0117 FAX 03-6320-8339

本醸造生貯蔵酒

ひでよし ひょうたん

お酒を注ぐ時に聞こえる「こぼれぼ」という音も、より一層お酒をおいしく感じさせてくれます。軽快な口当たりと爽快感をお楽しみ下さい。

未成年者の方にはお酒をお販売しません。

(名)鈴木酒造店
大仙市長野寺二丁目9
電話0197-560121

300ml ¥389(税込)

若者チャレンジ応援プロジェクトスタート

果敢な若者の挑戦を応援して 地域活性化や若者の定住促進



若者が住み易い

まちづくり

大仙市の新たな挑戦



「だいせんLabo」は、誰もが訪問して問い合わせや相談が出来る施設です。入口の表示も、手書きで気取ったところもなく、気軽に顔を出せる雰囲気が溢れています。



皆さんのチャレンジを応援します！

だいせんLaboにご相談ください

だいせんLaboでは、大仙市内において、夢に向かって挑戦したいと考えている方、起業したい方、資格・検定を主として活かしたいと考えている方、地域を元気にする取組を行っている方など、みなさんのチャレンジについて、目標が達成できるような一助となる、働き手、資格機関、大学、金融などと連携しながらサポートを行います。みなさんのチャレンジのはじめの一歩として、まずはだいせんLaboへお気軽にご相談ください。

主な機能

- ① チャレンジする若者等を対象とした相談窓口
- ② 地域課題等の解決を目指すリ빙ラボ

だいせんLabo のイメージ

「市」：だいせんLaboの運営、新たなチャレンジ等への支援（協働）

「企業」：経営者からのアドバイス

「大学」：専門的・知的情報の提供等による協力

「金融機関」：資金調達などの相談

「高工団体」：起業等への助言・支援

「志を同じくする仲間」：交流会等を通じた情報交換

だいせんLabo
（運営）大仙市企画部若者チャレンジ推進室
☎0187-63-1689
✉young_challenge@city.daisen.lg.jp

連絡先（問合せ先）

意欲溢れる若者たちが来たられど、やる気ある人を応援するホスター。そして「だいせんLabo」を覗いてみてください。大歓迎です。

懇話会での老松市長のご報告から「大仙市の新たな取組み」は、これからの大仙市を展望した政策が力強く、希望溢れるものでした。出席した各幹事からも好意的かつ頼もしく受け取られました。中でも、定住、移住促進に関する政策は、若者の外部地域流出対策が大仙市喫緊の課題です。その時だけに、やる気のある若者のチャレンジを、市が全力で応援する「若者チャレンジ応援プロジェクト」は、大仙市の将来を展望した試みとして注目されます。

言うまでもなく大仙市の将来は、これからの時代を担う若い世代の力に託されます。若者をどう育てて行くか。やる気のある若者をどのように支援していくかは、私たち世代の責任です。そこで若者チャレンジ推進室の新田室長に、プロジェクトの構想と展望をお伺いしました。

だいせんLabo開設

「大仙市は多くの自治体と同様に、人口減少が深刻な問題となっています。令和2年度の国勢調査では、前回調査と比較して5,126人、年間で約一千人が減少しており、その要因のひとつは、「若者の流出」です。この「若者の流出」の抑制は、地元での雇用創出や生活環境の充実などが必要で、とりわけ「若者が活躍できる機会づくり」「若者の夢や希望を実現できる土壌づくり」が重要です。

大仙市ではこうした状況を受け、今年度から夢や希望に向かってチャレンジする若者や、地域の課題解決、地域活性化に行動を起こそうとする若者を応援する「若者チャレンジ応援プロジェクト」をスタートしました。このプロジェクトは、若者による「地域の元気創出」や「若者の市内定着」を促進し、大仙市の持続的な成長を目的にした、初の取組みです。

このプロジェクトの柱は、四月二十二日、ゲストハウスフォーシーズン一階にオープンした「だいせんLabo」です。これは企業や大学、金融機関、商工団体などに賛同を頂き、市内で起業や地域活性化などの取組みを考える若者に対し、その実現に向けて総合的なサポートを提供するもので、今年七月の時点で、述べ七十一名から、様々な相談を受けております。

若者チャレンジ応援の寄付金を募集も

またこうした相談対応のほか、この取組みを力強く促進させるためのクラウドファンディング「若者チャレンジ応援補助金」を創設しました。この制度は、ふるさと納税等を活用し、市内外の方々の応援を求める仕組みです。今年十月以降、インターネット「ふるさとチョイス」を通じ寄付の募集を考えています。この他、地域資源の活用をし、産学官の連携、取組みを通じて、大仙市の新たな価値を創出していきます。これは大仙市にとって、まさに新しいチャレンジです。地域全体の若者のチャレンジを応援する「土壌づくり」と「人材づくり」を進め、若者のチャレンジが次のチャレンジを生む「チャレンジの好循環」を構築していきます。

第94回 全国花火競技大会「大曲の花火」

三年ぶり 重厚・感動の大輪

雨をついて大曲の夜空 絢爛・華麗

観客の歓声 街に活気蘇える！

今や花火の美を追求して世界一の呼び声の高い「大曲の花火」。第94回全国花火競技大会は八月の最終土曜日、今年は8月27日、大仙市大曲の雄物川河川敷・大曲花火公園で新型コロナウイルス禍の中、三年ぶりに行われました。生憎の雨でしたが豪華な美の祭典は、花火のまち大曲に活気と感動を残してくれました。

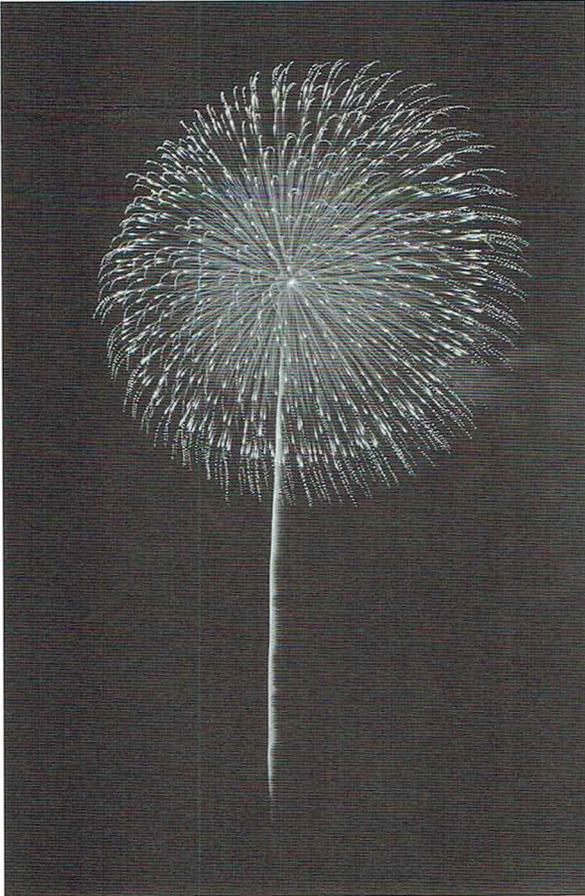
栄えある内閣総理大臣賞

マルゴ（山梨）が初受賞

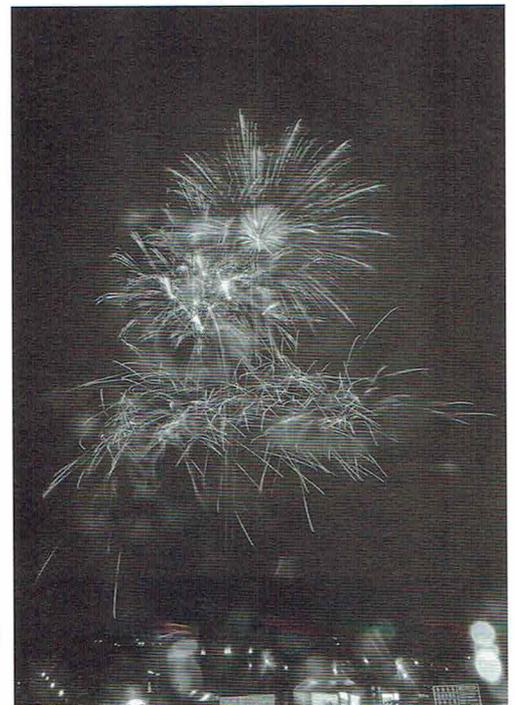
新型コロナウイルスの感染防止のためにこの二年間「大曲の花火」は、開催延期の止むえない事態に陥りました。

まち本来の活気も失せることとなります。二年間の中断はともすれば活き活きとした大曲のまち本来の活気も失いが

花火のまちで花火大会が開催出来ないとなると、



内閣総理大臣賞に輝いた株マルゴの10号芯入り割物



地元の(株)小松煙火工業提供 創造花火「氷華(アイスクリスタル)」

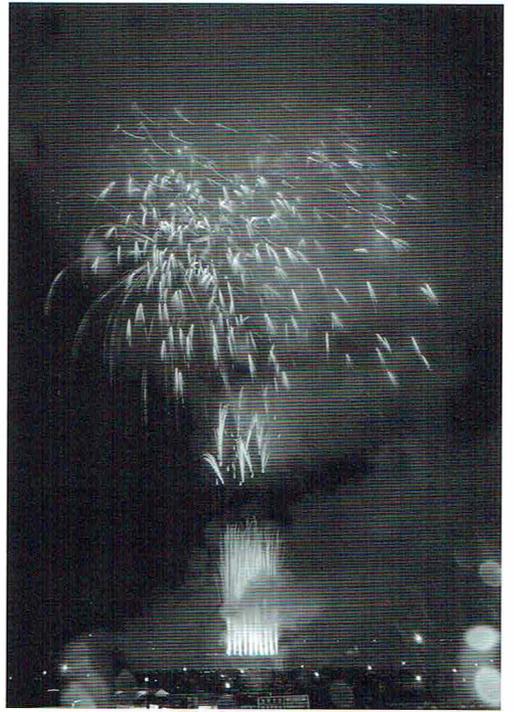
今年はこの二年間にわたる経験と配慮をもとに観客席をテーブル席にするなど、感染対策を万全にしての開催決定は、全国の花火ファンはもとより、大仙市民や大仙市に所縁のある人々にも大きな喜びと活力を与えました。

三年ぶりに開催された全国花火競技大会「大曲の花火」は第94回大会として8月27日に開催されました。競技大会の出場権を得て参加出来た花火業者は、秋田県内外からの選り抜かれた28業者。打ち上げられた花火は1万8千発。4～5日前から北海道や青森県側から崩れた天候は、「大曲の花火」当日には秋田県南地方にかかり、大会会場も雨になってしまいました。しかし、待ちに待った花火大会と

新型コロナウイルス防止に 万全を期した対策

新型コロナウイルス禍の心配を乗り越えて、市民は元より多くの花火ファンや花火関係者の熱い熱を結集して開催された花火大会でした。会場で観覧できる入場者数も、例年の6割程度に絞り、密を避ける方策としては、平常は1桁席6人の桟敷席を廃止して、今回は4人掛けのテーブル付き椅子席など、主催側の工夫と苦勞が滲み出た大会でした。

私たちが子どもの頃は、夏は「大曲の花火」が当たり前

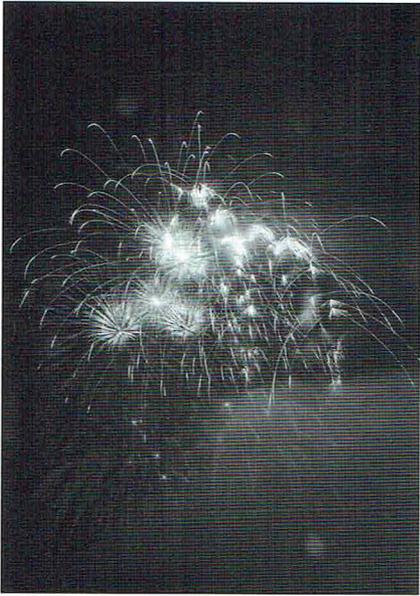


響屋大曲煙火(株)提供の創造花火優秀賞
「晩春に咲き誇る藤棚～しなやかに舞う～」

のように催すものとして育ちましたが、今回のように二年もの間、開催出来なかったということは、人々の気分を沈め、街の通りにも活気が乏しく感じられたものです。

それだけに三年ぶりの開催は、大曲のまちに活気を蘇らせ、以前の雰囲気を知っている人々の気持ちを明るくして

(株)和火屋の芯入割物
昇曲導付 四重芯変化菊



(株)北日本花火工業の創造花火
星灯りの夜に浮かぶススキ

くれるものでした。雨を突いて、テーマに添った音楽とともに打ち上がる花火も色鮮やかに、世界一の名を汚さぬ感動を与えてくれました。

「大曲の花火」は今回もNHK・BS放送で全国放送をされましたが、首都圏大曲会の会員の中には、全国の知人友人、関係者に前もってお知

らせし、「我がふるさとの大イベントを是非見て欲しい」と案内した人も多数いました。

放送は雨にも関わらず絢爛豪華な「大曲の花火」の雰囲気とともに全国各地に、夏の夜の北国の感動を伝えてくれました。テレビのゲストとして出ていた大仙市出身のタレント柳葉敏郎さんの、解説よりも感動で号泣する姿にもらい泣きましたという感想も寄せられていました

2000年以降、総合評価の最も高かった業者に授与される内閣総理大臣賞は、山梨県の(株)マルゴーが初優勝しました。マルゴーは10号自由玉の部、音楽とあわせた創造花火の部の2部門で最も高い評価を集めました。



明るい未来を信じ続ければ夜明けは必ずやって来るー
大会提供花火「曙光(きようこう)」。第94回「大曲の花火」を飾り、全国の花火ファンに感動を与えた

飛翔する 大仙市

大仙市 市役所訪問

大仙市の観光施策と方向性を明確にする

観光文化スポーツ部 観光振興課

八重に彩られる観光交流都市を目指して！



観光振興課のみなさん 左上から西尾直通主任、山崎兼人課長、進藤哲規主幹、左下は鈴木一徳主査、齋藤若菜主事、花火玉や大仙市のマスコット人形「まるひちゃん」を手をしている



山崎 兼人課長

観光は地方創生の柱

平成18年成立の「観光立国推進基本法」は、日本の観光産業のあるべき姿を高らかに謳います。

「観光は、国際平和と国民生活の安定を象徴するもので、その持続的な発展は恒久の平和と国際社会の相互理解の増進を念願し、健康で文化的生活を楽しみたいとする我らの理想とするところである」

この基本法の制定で、観光は21世紀を担う日本の重要な政策の柱として位置づけ、「観光は地方創生の切り札、成長戦略の柱」とされました。

「観光」は、古代中国でも様々な意味を含んで行われ、近代に

においても、英語ではサイトシーイングやツーリズム、レジャーなどの意味合いを持って益々広がっています。

観光を一言で表せば、「日常生活を離れて行う様々な行動」と言えます。そこには実際に観光行動をする「観光客」や「旅行者」は勿論、非日常体験をする観光地等観光対象となる「観光資源」、それらをサポートする観光産業や交通手段も含めた「観光関連産業」、そして観光客を受けいれる「地域社会」があります。観光産業は裾野が広く、奥深い多くの要素が合わさって成り立っています。

観光文化スポーツ部の発足

大仙市は令和3年4月、観光行政と表裏一体であるスポーツ行政及び文化財行政を一体的に所管することで、観光振興につながる組織機構を再編しました。

それは、経済産業部から観光振興課と温泉施設対策室が、教育委員会生涯学習部から文化財課とスポーツ振興課がそれぞれ移管し、多様なとらえかたがある「観光」を、大仙市の環境に合わせた形で具現化し、地方創生の有力なパワーとする目的で「観光文化スポーツ部」を発足させました。令和4年4月1日



大台スキー場からの雄大な眺め。冬の季節、雪の覆われると絶好のゲレンデに様変わりして賑わう



真木真昼県立自然公園に含まれる薬師岳。見事に広がるニッコウキスゲの群生が訪れる人の目を奪う

現在、29名体制となっております。観光振興課では、大仙市の観光施策と観光振興の方向性を明確に「第3次大仙市観光振興計画」を策定し、新しい部の発足と共に

雄大な自然、豊かな農・食 多様な文化を誇る大仙市

に計画をスタートさせました。この計画は、地域関連産業・関係団体と共創し、雄大な自然・豊かな農・食、多彩な文化、多様なスポーツに加えて、日本最高峰の技術と規模、屈指の知名度と伝統を誇る「大曲の花火」など、色とりどりの光を観て、貫うことで大仙市の知名度を高めます。それによって市内外に大仙市の魅力を発信し、訪れて頂き、そして満足して貰うことを基本方針としています。

「大曲の花火」を軸に

観光大仙市の認知度向上・競争力向上は、何と言っても全国ブランドである「大曲の花火」の活用が最善です。しかも、平成17年に8市町村が合併し大仙市が誕生したことにより、多く

の祭りやイベントなど、観光資源が一気に増えました。祭りでは、「刈野の大綱引き」(西仙北、国指定重要無形民俗文化財)、「ドンパン祭り」(中仙)、「川を渡るぼんてん」(花館)など。イベントや自然

観光では、独自ルールによる「500歳野球」(神岡)、自然観光では、「真木真昼県立自然公園」(太田、美郷町)が特に知られています。また文化財史跡では、「線刻

千手観音等鏡像」(中仙、県内唯一の国宝)、「弘田の柵」(仙北、国指定史跡)、「旧池田氏庭園」(仙北、国指定名勝)、「旧池田家住宅洋館」(仙北、国重要文化財)、「旧本郷家住宅」(角間川、国登録有形文化財)、「唐松神社」(協和、県指定有形文化財)などです。

このように「大曲の花火」を中軸に、「自然、農・食、文化、スポーツ」の4つの柱を活用した観光振興を掛け合わせ、滞在時間と消費行動の増を図り、地域社会と地域経済の活性化につなげることを目指しています。

大曲駅は 秋田県 南の玄関口

JR大曲駅は、秋田新幹線こまち号が全て停車し、県内では秋田駅、土崎駅に次ぐ乗降客の

多い、いわば秋田県の南の玄関にあたる駅です。

駅は様々なかたちで「旅」と関わる人々が行き交い、日常と非日常が混じり合っているところ。そのひと時を大事にして貰おうと当課では、快適性を含めて駅の魅力向上を目的に多くの取組みをしています。ここで簡単な説明が必要となりますが、大曲駅の建物その大部分は、大仙市が所有する「大仙市観光情報センター」になっていきます。従って、キオスクやみどりの窓口、改札付近を除く、乗降客が利用する東西に通じる自由通路や大階段も、市が管理する分野

乳頭温泉郷

黒湯温泉

〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生内字黒湯沢2-1
TEL 0187-46-2214 FAX 0187-46-2280
HP <http://www.kuroyu.com>



秋田県内唯一の国宝
線刻千手観音等鏡像
(大仙市豊川・水神社)

となりです。
令和2年には、乗降客がしよつちゅう目にする駅西口「観光センター」の大型タペストリーを「大曲の花火」に替えたり、東西を貫く通路にはステーションピアノの設置、大曲工業高校生による秋田杉を用いた木製ベンチの設置、そして秋田新幹線こまちの車窓からも見えるよう、駅東口に東北最大級のLED大型看板の設置をしました。

令和3年度は、駅西口に下りエスカレーターを増設し、明るい色に塗装し直しました。合わせて東西自由通路に4カ所ある大型陳列棚も、より利用し易いようにリニューアルしました。そして二階インフォメーションホールのリニューアルを行いました。



大仙名物・ドンパン娘、秋田犬の「花捷」(はなしろう)と記念撮影をする老松市長

い、新たに設けた秋田杉のカウンターには、モバイル端末を利用し易いようにAC電源やUSB電源を備え付け、利用者に好評を得ております。

各地と連携による複合的効果を期待

大仙市は、JR大曲駅や高速道インターチェンジ、秋田空港に至近という交通の要綱であるため、その立地の良さを生かして、他団体との連携も積極的に行っています。JR秋田支社とは、令和元年から「函館・津軽・秋田広域地域観光推進協議会」に参加し、首都圏観光キャラバンや、クルーズ船受入れ体制強化などを行っています。

県とは、令和4年3月に策定された「秋田県観光振興ビジョン」仙北地域のプロジェクトの目指す姿として、「アウトドア・アクティビティの聖地化」と、「スノー&ナイト体験型観光」の推進が挙げられます。

大仙市は特に

「スノー&ナイト体験型観光」の推進が挙げられます。

「真木真昼県立自然公園の活用」をはじめ「東北第3位の酒蔵を有する酒どころ」、また「小正月行事として冬のお祭り」も盛んなところから、地域資源を活用した誘客促進を図っています。隣接する仙北市と美郷町とは、「大曲仙北観光圏域推進協議会」を結成して、ドライブマップを作成するなど、相協力して地域内の観光活性化を図っています。

You Tubeなど新しいPR活動も

令和2年2月頃から拡大した新型コロナウイルス感染症は、観光面でも多大な影響を及ぼしました。特にこれまでのように、対面型PR活動が出来なくなることから、観光振興課では新たなPR活動として、令和3年度から、地上波放送やYouTube、SNSを組み合わせた

「観光・物産デジタルPR」に着手しました。15分のテレビ番組を制作し、令和3年11月から、秋田県、宮城県及び神奈川県で放送したほか、同年11月下旬からはGoogleやFacebookにWeb広告を出し、大仙市公式ネットショップである「大仙市観光物産協会のホームページ」に誘導するようになった結果、前年比161%増という顕著な効果を得ることができました。

またこのテレビ番組の一部を活用して、台湾のテレビ番組(民視)で放映し、老松市長を初め、ドンパン娘や秋田犬・花捷(はなしろう・ザギトワさんに贈られたマサルの母犬)が出演し、大仙市観光宣伝の一役を担いました。

コロナ後を見据えた多角的な支援も

新型コロナ禍でまともに影響を受けた観光関連事業者には、コロナ後を見据えた事業継続と底支えを目的に多角的な支援を行いました。それは、大規模コンベンション施設を有する事業者向けの運営支援、観光バスやタクシー、並びに代行運転事業者向けに事業継続支援を行ったものです。また、「全国へ届け、大仙の味」キャンペーンで、大仙特産品を3千円以上お買い上



「ようこそ大仙市へ・大曲の花火」がよく目立つ、大曲駅西口の歓迎幕



大平山(姫神山)は大曲地域に住む人々の心のふるさとだ。猛暑の日、登った頂上からの眺め。真下に雄物川、広がる街並みの向う、青空をバックに奥羽山脈が連なっている

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、旅のスタイルも変わって来ました。この動きに対応して、真木真昼県立自然公園に位置する「太田四季の村」を核とし、雄大な景色や自然を活用したスポーツやアウトドア・アクティビティなど、体験型重視の新しい観光コンテンツの開発を推進する目的で「東部エリア観光ビジョン」策定に向け取り組みを進めています。太田地域のみならず、中仙地域、仙

体験型重視 新しい旅のスタイルに取り組み

げには送料を全額負担し、また宿泊事業者の光熱水費支援などを行いました。



明るくリニューアルされた大曲駅2階のインフォメーションホール。秋田杉のカウンターが美しい



コロナ禍前、有楽町や新宿駅西口等で開催した「観光物産PR展」(2018年、東京・有楽町で)

新たな旅のスタイルを提供 「だいせんファン」増加にご協力を!

大仙市は観光面において、まだまだ活かし切れていません。国内外の人々に、新しい大仙市の観光スタイル

信じます。大仙市は観光面において、まだまだ活かし切れていません。国内外の人々に、新しい大仙市の観光スタイル

北地域の地域資源を組み合わせること、東部エリア全体の観光振興を目指します。

観光産業の興隆は、「国際平和と国民生活の安定の象徴」を意味します。新型コロナウイルス感染症や国際紛争もいずれば落ち着き、以前のように世界の人々が自由に旅行出来、国際相互理解を深める時が来ることを信じます。

ルを提供し、首都圏大曲会会員を初め、大仙市にルーツを持つ多くの人々に心から楽しんで貰えるよう、様々な切り口で観光施策を推進してまいります。ぜひお知り合いの方々にも大仙市の魅力を伝えて頂き、「だいせんファン増」にご協力をお願い致します。

取材にご協力頂いて

観光文化スポーツ部観光振興課の山崎課長には大変ご協力頂き有難うございます。

新型コロナウイルスは、インバウンドの減少とともに、国内の移動にも急ブレーキをかけた。必然的に観光関連産業に影響を来したことは言うまでもありません。取材を通じて、担当する観光振興課の苦悩と、新型コロナウイルスを模索した施策に積極的に反応し、目的に向けた意気込みを感じました。「観る」観光から「触れて、体験する」観光へ、時代は動いています。観光施策のトレンドを確実に捉えた行動に、逞しい叡智と意欲を感じました。首都圏大曲会会の信条は、「ふるさと貢献」です。観光産業の興隆はふるさとの経済力を高め、ふるさとの発展に結びつきます。「花火のまち」に象徴され、八重に彩られる大仙市の魅力を、会員こそぞって多くの人々に呼びかけたいと思います。(大釜茂璋)

新型コロナウイルス禍、東京オリンピックピック2020、大曲を後にして七十余年、この年私は九十歳を迎えた

投稿 卒寿紀行 — わが若き日の思い出

首都圏大曲会会員 小西 西國 男

昭和六年生まれの、首都圏大曲会会員の小西國男さんは、昨年めでたく九十歳の卒寿を迎えた。人生百年時代と言われるて久しい。偉大な彫刻家で、文化勲章受章者の平櫛田中は、「七十、八十は鼻たれ小僧、男盛りは百から百から、わしもこれからこれから」と自分を鼓舞させた。小西さんはいよいよ男盛りを迎える。大曲での若い日の思いを投稿して頂いた。

昭和十三年 大曲尋常小学校に入学

私は昭和六年（一九三一年）



小西さん夫妻 — 3年前まで住んで居た横浜市でお二人は、「横浜みなとみらい合唱団」で活躍していた

八月、秋田県仙北郡大曲町柳町（現在、大仙市大曲上大町）で生まれた。その年九月満州事変、翌七月一月には上海事変が始まるなど、世相も何かと騒がしくなり始めた頃である。

昭和十一年、大曲仏教協和会が運営する上宮幼稚園に入園した。（上宮太子 聖徳太子）二年間の入園生活だった。金持ちの子弟は守り女中付きで、帰宅まで控室で待っていた。時代はそろそろ鉄ものを買えなくなつて来た頃だったが、母は私の小学校入学祝として金物屋に頼み、大好きだった「焼き餅」の鉄鍋を買ってくれた。

四月、大曲尋常小学校に入学したが、人数はいつもの年より少なく4クラスだけだった。上の学年は5クラス、下は6クラスもあった。しかし私の町内30軒足らずの家には、同期生が10人もいた。また各家に子どもは4〜5人はいいたので、昭和二年（十五年）に生まれた子どもたちは、総勢百人以上もいて、町内は大そう賑やかだった。

昭和十九年から二十年にかけての冬は、殊の外雪が多かった。屋根からの雪下ろしには苦勞も、家の前を通っている国道からも、家には階段をつけて出入りしなければならなかった。学校もまた大変。古い体育館が雪の重みで潰れそうだと、毎日のように雪下ろしをした。朝登校すると、夜のうちに積もった雪が、屋根の雪に届くほどで、体育館はギシギシ音を立てる始末。窓から一メートルぐらい雪の溝を作つて、屋根の雪と降り積もった雪を離す作業をした。この年の冬は、こんな作業ばかりで勉強は二の次だった。

憧れの秋田工業学校航空機科に合格

戦争の状況はいよいよ差し迫り、教育課程も、それまでは高等科二年卒業だった制度も変わり、前年から、工業学校へも小学校卒で入ることが出来た。秋田工業学校に新しく航空機科ができたので、私はこれを受験することにした。実は小学校五年、六年頃から、従兄弟の模型飛行機店で手伝いをしていたこともあって、私も空に憧れ、飛行機大好き人間になっていた。受験

の結果、無事に憧れの秋田工業学校航空機科に合格した。終戦も近づく昭和二十年春のことである。

秋田工業学校では、私のクラス約50人のうち、上は昭和五年生まれ、下は昭和八年生まれという年齢差が大きかった。

大曲から秋田までは汽車通学。朝6時過ぎの汽車に乗り、7時半過ぎに秋田駅に着く。私の利用する奥羽本線乗り組、同下り組、羽越線組や船川線組とほぼ同時に到着し、同乗する他の学校の生徒たちと一緒になっ

て、駅の内外は毎日大変な混みようだった。どこの学校も各線毎に、降りた生徒は隊列を組んで学校に向かった。

学校での勉強は、教科書に基づく授業と、実習があった。ところが入学する前に実習する機械工場が火事で焼けてしまったので、私たちの実習は、焼け跡整理が主だった。

それをつかの間、戦局がいよいよ切羽詰まって来て、私たちは食糧増産に動員された。秋田市土崎港に近い八橋競馬場趾や、旧雄物川河口の砂地を開墾

襲撃報がかかった。その時は直ちに作業を中止し、付近の林に避難したり、現地解散となった。

大豆の作付けが終わると、今度秋田市郊外の、大野台を開墾した。秋田駅から6〜7キロほど歩いて一時間半以上もかかった。主な仕事は、松の木を切った後の根っこ（飛行機の燃料となる松根油の原料）を掘り起こし、その跡を開墾して大豆を植えるものであった。

怖かった空襲の経験

この頃になると、秋田県南地方にも度々艦載機が飛来しての空襲があり、特に昭和十九年七月十五日は凄かった。この日学校が休みで私は自宅にいたが、突然空襲警報が鳴り、遠くでダダダダッと機銃掃射の音がして、間もなく爆音が聞こえ、飛行機が大曲の街の上を北西に飛び去った。さあ、それからが大変だった。

これは大曲から約6キロほど離れた六郷の明天地野に飛行場建設のため、一般町民を初め小学生なども多数、勤労奉仕で動員されていたからである。私の家でも小学生の妹と病弱だった上の姉までも奉仕に参加していたからである。直ぐにも私か母が迎えに行こうかと相談した

が、もし途中で行き違いになつてはと、思い留まった。夕方二人とも無事に帰って来た時はホッと喜んで喜んだ。妹や姉から現地での様子を聞いて、本当に怖い、大変な目に遭ったんだなと胸を撫で下ろしたものだ。

空襲はこの他にも数回経験した。ある日も朝、学校に行こうと家を出た時、突然空襲警報が鳴り、遠くで爆音と機銃掃射の音がした。慌てて家に駆け込んだ。その後、駅に行つて見たが汽車は不通だった。訊けば後三年の駅で機銃掃射を受け、負傷者も多数出たらしいと言う。

翌日はいつも通りに汽車が来て、いつも通りの車両に乗ったが（乗る車両は大体学校ごとに決まっていた）、座席の背面や椅子がまるでハチの巣のように弾の貫通した穴が開いていた。敵機来襲がもう少し遅い時間だったら、乗車した私たち自身がこんな目に合っていたらと思うとぞっとした。

また他の日だったが、私たちが利用する奥羽本線の、峰吉川のトンネルの手前で貨物列車が狙われた。高台を走る貨物車両が崖下まで転がり落ちた。運転士は即死だったと言う。付近の田地には爆弾の跡が無残な姿をさらけ出し、水が溜まり丸い池

のようになっていた。昭和二十年はこのような状態の中で夏休みに入ったが、それは僅か一週間程の短いものだった。

秋田・土崎空襲の夜

八月十四日、新聞配達所をしている従兄から、夕方、重大発表があるらしいから待って居るようにと連絡があった。しかし7時、8時、9時と待っていたが何の発表もなかった。

その夜のことである。夜中の12時頃、突然、ドスンと響く音とともに空襲警報が鳴った。そして轟轟と耳をふさぐほど響く爆音である。慌てて防空頭巾を被り、自宅の内蔵に退避した。

しばらくして、ここには爆弾は落ちて来ないと合点し、外に出て空を仰いだ。飛行機は雲の上を飛んでいるらしく、影は見えない。どうも飛行機は秋田市の方向に向かっていているようだった。大曲は大丈夫らしいと少しは安堵したが、しばらくして西山方向を見ると、北の空が真っ赤に染まって見えた。大変だ。秋田市が爆撃されているらしいと、大騒ぎになった。まんじりともせずに夜が明けた。

まず心配なことは、秋田市に住む姉の事だった。翌日の朝、



大盛橋から見た西山一帯 — まだ雄物川改修工事が終わっていない頃だったから多分昭和40年以前の光景と思う。当時、丸子川はダイレクトに雄物川に注ぎ込んでいた

ここは八橋油田地帯の一角なので、付近には石油掘削用の櫓が立ち、歩道の所々には石油が滲み出て油臭く、これには参った。時々、敵機来襲の警戒警報や空

姉から無事であるとの知らせがあり、ひとまず安堵した。そして昨夜の爆撃は、秋田市土崎の油田地帯と、船川の製油所だったと伝えて来た。昨夕の重大発表とはこのことだったのかと私は早合点したものだ。

そして、終戦の日：

翌日の朝、正午に重大発表があると町内会から連絡があり、近所の人々がラジオの前に集まった。ラジオの音はガアガア、ガリガリと雑音で、良く聞き取れなかつたが、どうやら天皇陛下の終戦の詔勅らしいと理解するまで少し時間を要した。みんなしーんと静まり返って聞いていたが、誰もが戦争が終わったなど信じられず、これは本当かどうか話した。時間が経つにつれてだんだんそれが現実と分かると緊張も解け、私たちはこれからどうなるかと、誰もが心配は募るばかりだった。

だった。翌日からは開墾を中止して本校に戻り、本来の授業を受けた。

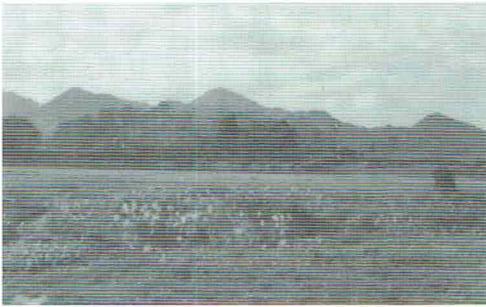
終戦になり一番変わった授業は、英語が復活したことだった。そして航空機関係の科目が無くなったことである。終戦から五日目は私の誕生日だった。そして兄貴が予科練から帰還し、九月七日、昨年から寝込んでいた父が、帰還した兄に今後を託すかのようにこの世を去った。私にとって生涯、強烈に印象に残る昭和二十年だった。

やがて秋田にも青い目の進駐軍の往来が目立つようになった。翌二十一年二月末頃から、今までのお金が封鎖され、一人百円までの新円の切り替えになった。わが家の僅かばかりの貯金でもどうにもならなかった。そして十月には第二次農地改革があり、小さな地主だったわが家には保有米が入らなくなり、一般の家庭と同じ配給米だけとなった。ご飯には芋、大根葉が入るのは良い方で、アメリカ軍放出のトウモロコシ粉はパンにしても食べられたものではなかった。わが家でも衣類などは次々と食料に替えられた。いずれにしても大変な食糧難時代だった。

この時代は雨期ともなると、

水害が多かった。中でも、過去六十年来経験したことのない水害と言われている昭和二十二年七月二十一日は凄かった。この日、学校は一学期の期末試験の日だった。私は学校終了後、なるべく早く帰ろうと帰路について。大曲駅に着いたのは午後3時過ぎだった。既に道路は駅前近くまで冠水していた。今までのこんな冠水は経験したことがないので、少し待っていたら引くだろうとタカをくくっていたが水は引きそうもない。仕方なく水に浸かりながら丸子橋に向かって歩いた。東西の横丁の地点は流れが激しく、何度か流されそうになった。

途中、何か所か冠水していない所があったが、丸子橋に来て驚いた。水は橋の欄干の上に達



私たち町内(柳町)の子専用の川遊び場所だった。雄物川と西山の光景が懐かしい

死ぬ思いの通学列車

この日、私より一列車遅い汽車で帰った同期のS君は、大曲駅の一つ手前の神宮寺駅で汽車がストップ。急遽降ろされて線路を歩いて帰るはめになった。途中の玉川鉄橋は、鉄橋の下を、増水した濁流が狂ったように流れ、その上を線路伝いに歩くことは死に物狂いの決断と決行だったと言う。

当時は列車の運行本数も少なく、満員で乗れないこともあった。ある時は機関車の前に乗ったり、石炭車の上に乗ったりもした。秋田駅を出て、途中一駅か二駅しか止まらない貨物列車にも、こっそり乗りこんだりもした。屋根のない無蓋車に乗った時は、トンネルの中の息苦しさ、トンネルを出たときに顔がススで真っ黒になったりで

大変だった。あの当時の燃料は質が悪い亜炭で、火が付いたまま列車後方まで飛んできた。そのため、窓とその隙間に落ちて燃えあがったり、また、車両連結部の幌が燃え出すこともよくあった。

ある日、帰途途中に丁度玉川鉄橋に差し掛かった際、私たちの乗った最後尾の車輛と、その前の車輛との連結幌と、窓の隙間が同時に燃えだしたことがあった。さあ大変！列車を止めて貰ったら、下は玉川。飛び降りることは無理。列車がようやく鉄橋を渡って急停車をしたときは、本当に死から脱出できたとはかりホッとした。

昭和二十三(一九二八)年、四月、私は新制の秋田工業高校一年生となった。この五月からサマータイムが実施された。

私はラジオ製作に興味を持ち、ラジオ店で修理のアルバイトをした。また音楽に興味があり、特にクラシック音楽を聴くのに夢中になった。昭和二十五年、秋田工業高校三年生となり、同級生には大学受験の勉強をしている人が多かったが、私は呑気に音楽や読書に明け暮れていた。夏休みには友だちと泊4日の旅行に出かけたりもした。

九月に学校の修学旅行が、

<同級会へのエール>

年輪きずなの絆つな深めて百まで生きる…

同期の仲間たちが繋ぎ合つなって豊かな人生

喜寿、米寿などと言っても、人生百歳時代となった現代では、ピンと来ない人も多いだろう。しかし「超長生き社会」となっても共に時代を歩んだ同期の仲間が、懐かしさとともに励まし合う同級会の意義は深い。楽しさや苦しさと共に歩み続けた全ての人々にエールを送る。短歌は田口恵子さん（仙北市田沢湖町在住）。

年輪の絆（きずな） 深めて
百歳まで
まだまだ続く人生の花道

動きは見えないが木の年輪は一年一年確実に増え、一年一年の行跡を残していく。人生とて同じことだ。日本は超長寿国となった。人生百年時代と言われて久しい。さあ私たちが、百歳を目指して頑張ろう。人生、まだまだ長いのだ。

それぞれに
歩んだ道は異なれど
集えば心一つに結ぶ

同じ教室で学び、同じ校庭で遊んだ同級生たち。泣いたり笑ったり、時には喧嘩をして先生に叱られた思い出。やがて卒業後に歩んだ道はそれぞれ異なっているが、長い年月を経て集った同級会の雰囲気は、あの頃と同じだ。いつの間にかみんなの気持ちは一つになっている。

笑い皺（じわ）の奥に輝く
少年少女
米寿迎える年明け近し

恥ずかしそうに手で顔を隠して笑う女の子だった。大きな眼を細めて照れ臭そうに笑う男の子だった。年は経て幾星霜。屈託ない笑い声は昔のまんまだ。しかし老眼鏡の目尻には、くつきり笑い皺。年が明けると私たちみんなが米寿

を迎えるのだ。

輪になって唄う
「ふるさと」 昭和の子
結んで解けぬ絆は続く

「兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川」音楽の時間、女先生の弾くオルガンに合わせ大きな声で唄った。戦争の昭和を生き抜き、世の中は平成、令和と変わった。まさに私たちは昭和の子。喜怒哀楽、苦楽を共に生きて来た同級生の絆は固く、決して解けることはない。

上履きは親の夜なべの
わらぞうり
八十路（やそじ）の今に
鼻緒（はなむ）は赤い

床暖房などまるでない時代。学校での上履きは、親が夜なべして作ってくれたわら草履。なんにもない時代、せめてこの娘のおしゃれ心を満足させてやりたいと、鼻緒に赤い布を使った親心。八十歳はとうにすぎた今でも、あの時のわら草履の赤い鼻緒が、鮮やかに目に焼き付いている。嬉しかった。

薪ストーブのはせる
音する 教室に
鉛筆なめなめ書く慰問文

まさに戦争の時代だった。戦地の兵隊さんに慰問文を書くこと、銃後の子どもたちも一緒に戦っているという気持ちで殊勝だった。いつの間にか外は雪が降っている。しんと静まり返る教室。薪ストーブのバチバチはせる音だけが

聞こえている。
「兵隊さんありがとう」
ほつべを赤くして子どもたち。鉛筆なめなめ、戦地に思いを馳せて慰問文を書いている。

八十余年 人は代われど
ふる里は
今に変わらぬ山川がある

八十余年、思い出すだに色々なことがあった。おさげ髪のおどけない顔、恥ずかしがり屋の大人しい娘、腕白ざかりの元氣いっばいだった少年、紅顔の美少年に憧れたあの日。親も兄弟姉妹、そして周りの人もみんな元氣だった。そして今、同級会の集い。順風満帆の歩みを続けた人は滅多にいないが、誰もが心穏やかな顔をしている。窓外に目をやれば、緑に連なる山並み、清き玉川の流れ、あの頃と少しも変わらない。心安らぐふる里の光景が広がる。

施設へと身を寄す友へ
書く便り
共に学んだ心の絆

共に遊び、共に学んだ友は長い思いのために、今は遠く離れた療養施設に身を寄せている。

晴れの日、雨の日、そして吹雪の日も、一緒に通い、学んだ仲間だ。「庭の柿の実が色づきだしたよ」、「雨の今朝は、ご機嫌如何」、「今年の同級会も話しが弾み賑やかだった」などと書いて送る便りも、同級生の固い絆で結ばれていればこそ。ゆつくりと療養して、早く良くなってください。

（解説文責・大釜 茂璋）

あった。当時、県では男子高校は1泊旅行しか許可しなかった。東京1泊、車中2泊の日光、東京見物になった。秋田を夜行列車で発ち、翌朝早く宇都宮着。それから日光へ回り見物の後東京の浅草に着いた時は、夕闇が迫っていた。翌日は午前中、都内見物、午後は、中央区の石川島重工業（株）第一工場を見学した。十一月になり、就職か進学を決める先生との話し合いが持たれた。この頃は、朝鮮戦争の真只中だったが、就職難だった。私は東京の私立大学進学は経済的に無理なので、地元の大目指すか、東京へ就職するしかないと考え、大学受験の準備をしながら、就職活動をすることにした。結果的に憧れの東京で、幸いにも石川島重工業（株）に就職することができた。翌昭和二十六年二月末、秋田県立秋田工業高校を卒業、三月下旬には上京、東京・佃の石川島重工業（株）に入社した。そして一週間の社内教育を受け晴れて四月、東京・豊洲の石川島重工業（株）第二工場設計部配属の辞令を受けた。今も心に残る我が人生の「卒業記録」、ふるさと大曲で過ごした若き日の、心に刷り込まれた思い出の一コマである。



大仙市で

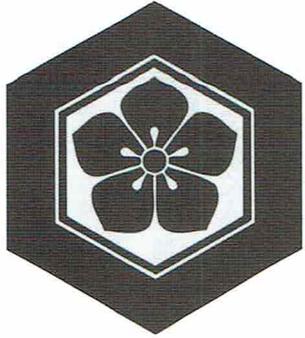
一度は訪ねてみたいところ

国指定の名勝

「旧池田氏庭園」

空から見た「旧池田氏庭園」。
家紋の「亀甲桔梗」を意識した六角形になっている

横手盆地に連なる広い平野が、秋田県が誇る米どころ仙北平野だ。江戸時代から、佐竹藩の財源として大きな力だったこの地方は、豊かな農民生活史を綴りながら栄えた歴史を有している。(藤田秀司著「仙北風土記」) その風土の中で、東北三大地主・池田家のように地域全体の福祉に配慮したこの地独特の地主と小作人の関係にある、現在に誇れる文化が栄えた。大仙市高梨地区の、国指定名勝「旧池田氏庭園」を訪ねた。(取材協力〓大仙市観光文化スポーツ部文化財課)



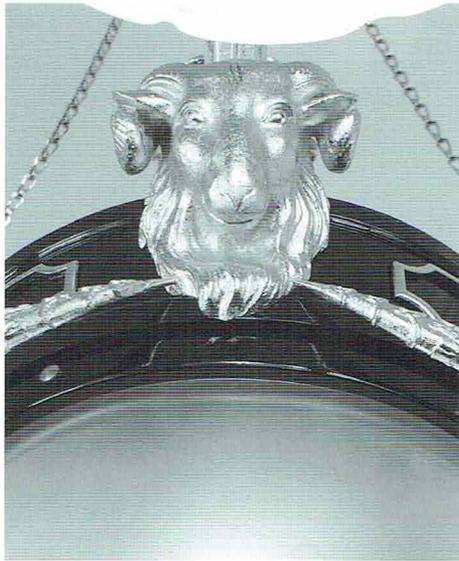
池田家の家紋「亀甲桔梗」

東北三大地主と言われた池田家の旧邸宅庭園(大仙市高梨地区)は、平成16年(2004年)2月、国の名勝に指定されました。庭園として国指定の名勝は秋田県では初めてです。

「旧池田氏庭園」は、仙北平野の広大な田園地帯(JR大曲駅から東に車で10分)にあり、稲田の中の浮島と言われます。秋田市の千秋公園や札幌大通

公園を設計し、近代庭園の先駆者である長岡安平の協力を得て、観賞上また学術上、勿論大仙市の貴重な文化財として、高く評価されています。敷地は、池田家の家紋である「亀甲型」を意識した六角形で、周囲は堀や土塁で囲まれています。





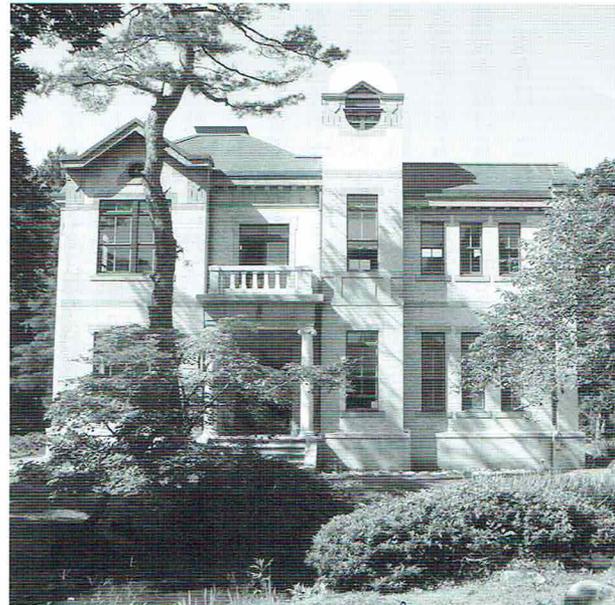
洋館内の随所にはシャンデリア煌めき貴重で高級な金唐革紙が部屋を彩る

敷地は約4万2千㎡あり、主屋南西側の主庭園には、中島を有する池を中心に、高さ及び笠

の径が共に約4メートルの、日本最大級の巨大な

大正ロマン溢れる 白亜の洋館

県内初の鉄筋コンクリート造り



大正ロマン漂う白亜の洋館。県内で初めての鉄筋コンクリート造りの建物。平成29年、国の重要文化財に指定された



高級な室内ゲームとしての玉突室もある

庭園の中の池を挟んで
巨大な雪見灯籠と洋館
が見える

雪見灯籠や、秋田県初と言われる鉄筋コンクリート造りの、白亜の洋館があります。
**洋館内随所には
シャンデリア煌めく**

重要文化財に指定されている、大正ロマン漂う白亜の洋館は、大正11年の竣工で、外壁は白磁のタイル張り、御影石の基壇がめぐり、車寄せの柱には国外から取り寄せたと言われる白色大理石が使われています。洋

池田家の慈善事業 教育の向上にも寄与

洋館は私設の公開図書館として、向学心を持つ地域の青少年に開放され、同地区の青少年の教育の向上に大きく寄与しまし

館内随所にはシャンデリアが煌めき、貴重な高級壁紙である金唐革紙が部屋を彩る、ルネサンス様式です。

た。また、食堂兼音楽室、玉突室などが設けられ、青少年の交流の場や、池田家の訪問客をもてなす迎賓館としても利用されました。

さらに池田家は、教育向上を目的として、邸内に講堂と呼んだ武道館を建て、柔道家の嘉納治五郎らを招き、地域の青少年たちに、文武両道を説く活動もしました。



木管を敷設し、湧水を引き込んで水道施設やプールもあった(その工事現場)





鬱蒼と茂る屋敷は、東北三大地主の名にふさわしく貫録と威厳がある。薬医門と呼ばれる正門は、現在も総ケヤキ造りの風格を保っている

また貧困児童を対象とした奨励施策として明治40年頃から、池田家を中心に組織された篤志団体「正進会」が、学校給食を開始しました。これは国としても珍しく、秋田県では最も初期となる学校給食でした。

その他にも庭園内には、敷設された木管で湧水を引き込んだ水道施設やプール、運動広場、家畜小屋、馬小屋、果樹園、菜園など、洋館や講堂と呼ばれた武道館とともに多種多様な教育施設が設けられています。

現在は、これらのうち多くの

建物が失われていますが、正門（薬医門）と五棟の蔵、洋館が当時のまま残っています。

現存する米蔵は、小作人が納める米を保管するための蔵として、明治時代中期頃に建築され、約6000俵の米を収蔵することができました。

米蔵は往時3棟あり、収穫期になると若勢やカキバナシと言われた日雇いの労働者が、四斗俵（60キロ）を担いで運び入れ、長梯子を使いながら積み重ねたと言います。現在米蔵は、企画展を開催する展示場などとして

使用されています。また味噌蔵は大正時代に建てられ、1階では味噌と醤油を醸造し、2階は台所什器などの保管場所となっていました。

春夏秋冬それぞれに彩と趣きがある庭園

国指定の名勝として指定される「旧池田氏庭園」の屋敷は、家紋の「亀甲桔梗」を意識した六角形になっています。鬱蒼と樹木の茂る広大な屋敷にふさわしく、「薬医門」と呼ばれる総ケヤキ造りの正門は、文字通り見事な構えの堂々たる門で、訪れる人々を圧倒しています。庭園内には広々とした池があり、池のほとりに立つ、高さ・笠の直径ともに約4メートルに及ぶ

国内最大級といわれる雪見灯笼も有名です。

大正11年、私設の公立図書館として建築された洋館は、内装の壁紙も豪華で訪れる人の目を奪います。かつて国会議事堂に使われていたものと同じ種類の壁紙で、金唐革紙（きんからかわかみ）が使われています。

このように「旧池田氏庭園」は春夏秋冬、それぞれの季節に添った彩が映えて、観光する人を楽しませてくれます。

また本庭園から3キロメートルほど離れた場所にある分家庭園も、隠れた紅葉の名所として親しまれています。

「旧池田氏庭園」沿革

平成16年2月27日

「池田氏庭園」として国の名勝として指定

平成19年10月9日

池田家当主より、土地や建物の大部分が大仙市に寄贈された

平成20年7月28日

池田家の私田分家庭園が名勝に追加指定され、指名勝が次のように変更される

○池田氏庭園

・池田氏庭園

・旧池田氏（私田）庭園

平成22年8月5日

一部名称が「旧池田氏庭園」に変更される。10月、洋館の修復工事終了

平成24年6月1日

皇太子徳仁親王殿下がご視察

平成25年10月19日

案内所「巨洲館」（おおしまかん）オープン

平成29年11月28日

洋館が「旧池田家住宅洋館」の名称で国の重要文化財に指定

平成30年

5月から11月まで通年公開

今年度特別公開

・無料開園日

「旧池田氏庭園」は毎年4月下旬から11月中旬にかけ公開しています。今年度は10月15日（土）～11月13日（日）の期間、特別公開として無料の定時ガイドや、通常非公開の洋館2階の見学（予約制、別途200円）ができます。また10月29日（土）、30日（日）、11月3日（文化の日）は無料開園日になりますので、見事に紅葉色づく庭園が鑑賞出来ます。

【写真・資料提供 大仙市】

第4回/全国500歳野球大会開く

I.O.F.C(岩手)の2連覇成る！



大仙市の話題

出場30チームの頂点に立ち2連覇を果たしたI.O.F.C(岩手県)チーム

「親父たちの甲子園」として知られる「第4回全国500歳野球大会」が、7月16日から18日までの3日間にわたり、大曲球場を主会場に、大仙市内6会場で行われました。

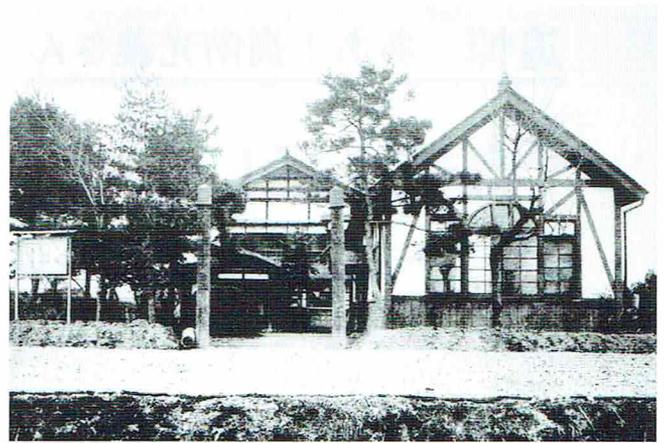


健闘しベスト4進出の神岡大浦クラブ

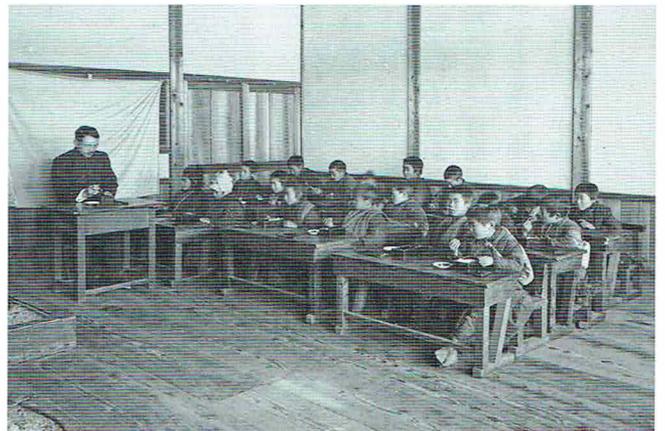
大会には大仙市内かの5チームをはじめ、秋田県内6チームと県外から24チームが出場し、熱戦を繰り広げました。市内チームでは、神岡大浦クラブと角間川角球クラブがベスト4入りを果たし健闘しました。

決勝戦は、前回大会優勝のI.O.F.C(岩手県)と、第2回大会優勝の牛島クラブ(秋田市)との対決でした。両チームの選手による、決勝戦らしく文字通り手に汗握る熱戦を展開。4対4の同点で迎えた最終回、先攻の牛島クラブが猛攻を見せますが、決定打を放つことが出来ず無得点に終わりました。その裏、I.O.F.Cは2アウト、ランナー無しから新田勝彦選手が劇的なサヨナラホームランを放ち、大会初となる2連覇を達成しました。

(広報だいせん「だいせん日和」2022年8月号より転載)



池田家は私財を投じて地域の社会福祉にも貢献している。小作人のための無料診療所の開設もその一つだった



かつて池田家は教育にも尽力し、篤志団体「正進会」を組織。貧困層の子を対象に秋田県初の学校給食を開始した



邸内には米蔵が3棟あり、収穫の季節となると若勢やカキバナシが四斗俵を担ぎ、長梯子を使って積み上げたという

『ふるさと大曲』第32号

令和4(2022)年9月26日

編集人：首都圏大曲会 発行人：大 釜 茂 璋

〒162-0054 東京都新宿区河田町6-6

教育情報プロジェクト気付

電話：03-3341-6339 Fax：03-6273-0081

e-mail：info@e-prosjp.com <http://www.supportlife.com>

印刷・製本：秋田協同印刷株式会社



心と心のふれあいのスペース

ご婚礼、ご宿泊、レストラン、各種ご宴会に！

ご利用をお待ち申し上げます。

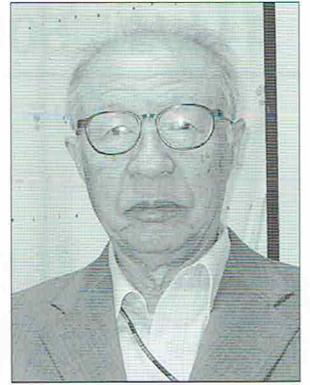
大曲エンパイヤホテル

〒014-0015 秋田県大仙市大曲白金町8番17号
Tel 0187-63-1131 Fax 0187-63-1541
URL <http://o-empire.com/>

追悼 ああ！高階光義さん

音楽を通しての深い付き合い — ふるさと思いの人情家 —

佐藤 重光 (黒皮 羽生)



高階光義さん

五月二十日発行の会報臨時増刊号でお知らせしたように、首都圏大曲会会員の高階光義さんが急逝されました。高階さんは、出身高校の秋田県立横手高校時代から音楽をこよなく愛し、仲間とバンドを組織して活躍したり、また作詞を趣味とする首都圏大曲会の佐藤重光さんとは深い友情で結ばれていました。そこで佐藤さんに、在りし日の高階さんを偲んで頂きました。



東京大学公開講座閉講の日は、上野駅裏のカラオケ店で打ち上げをした。高階さんはいつも穏やかな表情で聞き入っていたが、気が向けば自らマイクを握りこ機嫌で楽しそうに、甘い声で唄っていた。(写真中央が、高階光義さん 撮影：首都圏大曲会・小松昭二さん)

高階光義さんはいつも物静かで微笑みを絶やさない、温厚な性格の方でした。人を引きつけるその人柄は誰にも好かれ、高階さんの周りには、首都圏大曲会の集まりでも常に誰かがいて、にこやかに話しが弾んでいました。

私は大曲市でも四ツ屋の出身、高階さんは市役所近くの賑やかな場所で生まれ育った、いわゆる「まちの子」でした。その二人が意気投合して刎頸の友さながらに、親しくお付き合いが出来たのは、若い頃から音楽が好きで、その知識に長けた高階

さんと、たまたま作詞を趣味とする私との相性が附合したのだと思います。二人は東京大学の生涯学習公開講座でも一語で、高階さんは私と違って熱心に聴講をし、本当に真面目に取り組んでいました。ともに首都圏大曲会で活動をした頃からですから、そう長い付き合いではありません。しかしお互い頻繁に連絡を取り合いながら、趣味とする音楽活動を通して友情を深めて行ったのです。

高階さん制作のDVD

「わが青春大曲 そして東京」

首都圏大曲会の活動として「東京で『大曲の花火』を観て、みんなでカラオケを楽しむ会」があります。大仙市の他のふるさと会からも参加して歌合戦が始まるほど人気の活動です。新型コロナウイルスの感染予防のため、ここ二年続きで休止のやむを得ない憂き目に会っていましたが、高階さんは、この会にも、友人の富樫武郎さんたちと協力し、大曲中学校の同期会の皆さんにも積極的に参加を呼び掛けていました。幹事会の企画だけでは物足りなかつたと見えて、

第5回大会からは、自分で撮りためたふるさと大曲の光景をDVDに編集して、「わが青春大曲、そして東京」、「なつかしの大曲慕情」など、素敵なタイトルとともに自らの解説で数年続けて上映し、好評を博したことは記憶に残ります。

高階さんは、DVDなどIT機器の操作に抜群の才能をお持ちの方でした。横手高校時代からバンドを結成して活躍していたことは書きましたが、上京してから仲間と一緒にバンドを結成して楽しみ、「NHKのラジオ歌謡を歌う会」などを組織して定期的に集まっては唄うなど、古き良き昭和人でありロマンチストでした。

私の作品では、高階光義さんの本名で、「就職列車」「夢のふるさとねんころり」「親父の眩き」「郷愁山河」など、ユーチューブでも歌われている数々を作曲していただきました。高階さんはふるさとの大曲を讃歌し、ふるさとを想い、ご家族や友人思いの優しい性格の持ち主でした。今もその優しさが強く心に残ります。

高階光義さん、本当に有難うございました。安らかに眠りください。合掌

新型コロナウイルス感染予防のため

令和四年度の総会も中止しました

新型コロナウイルス禍は今年になってからも第六波、第七波と続き、収束の兆しも見せず人々の悩みは消えません。猛暑の夏の熱射病と競うように衰えも見せず暴れまくっていましたが、九月に入ってからはどうにか新規感染者数も落ち着き出したと言う感じにもなりました。第八波などが押し寄せることなく、このままり静まってくれるよう祈らずにはいられません。

首都圏大曲会は、5月に発行した臨時増刊「ふるさと大曲」でお知らせしたように、令和4年度の活動のうち7月に開催を予定していた総会は中止いたしました。これで首都圏大曲会の総会は、三年連続で開催出来なかったこととなります。総会以外の催しでも、「東京で、大曲の花火」を観て、みんなでカラオケを

楽しむ会」も昨年は開催出来ず、ここ三年間は、会員が直接集う会はすべて中止の憂き目を見たこととなります。

大仙市の首都圏ふるさと会こそぞって中止

総会の中止は首都圏大曲会を始め、ドンパンふるさと中仙会、東京嶽雄会、首都圏にしせんぼく会、ふるさと南外の会やふるさと太田会、東京協和会、首都圏仙北町ふるさと会も中止しました。各ふる

「大曲の花火」の映像を見ながら、ふるさとに思いを馳せる参加者たち
(令和2年の会から)



幼馴染が揃って秋田銘酒がイッパイ入れば、和気あいあいと昔語りにも花が咲く

首都圏大曲会の令和4年度活動予定

5月に発行した会報の臨時増刊号でも触れていますが、新型コロナウイルスの影響は、私たちの生活にも計り知れないものがあります。ふるさと会の大事な役目は、活動を通して会員の絆を育む行動です。会員同士が一堂に会しコミュニケーションをとり、直接仲間意識を高め合うことが出来なかつたことは残念でした。令和4年度も、会報「ふるさと大曲」は、9月、12月の2回発行します。行動を自粛する中で会報は、会員のコミュニケーションを取り、絆を深める上で大きな力となります。

7月2日、三年振りに開催された「大仙市首都圏ふるさと会懇話会」に出席しました(詳細4頁)。この懇話会は、老松市長など市からの出席があり、大仙市をふるさととする八つの会の参加による意見交換会で、今後の活動の方向性を示唆する有意義な会です。

2月開催予定の、「東京で、大曲の花火」を観て、みんなでカラオケを楽しむ会」は、今後の新型コロナウイルス禍の状況を見て決定し、会報33号(12月発行)でお知らせします。

首都圏大曲会

事務局 だよ



と会とともに、幹事は悩み、新型コロナウイルスの動向を読みながら、「感染防止」のために決断したことが読み取れます。これはきわめて勇気ある中止決定の決断です。一般の人々が無作為に集う会合と違い、会員制度による会員だけの集いだけに、クラスター発生は絶対に避けなければなりません。各ふるさと会は、来年は新型コロナウイルス禍の収束をみて、充実した総会を迎えられるよう、今年はいっぺり充電をすると、幹事たちの深い悩みと決意が見られました。

規約では、令和4年度は幹事選出の年に当たります。幹事は、会員並びに幹事会の自薦他薦を経て、夏に開催される総会の決議を経て決定されることとなります。

しかし総会が中止になり、今回も令和2年度の前例に則し、会長から「全幹事留任」の提案がありました。そこで幹事間でメールやFaxを使い意見交換をした結果、「特別な事態に基づき、今期(令和4年度〜令和5年度)は会長提案通り、続行はやむを得ない」という結論に達し、左に掲載の幹事態勢で決定しました。

首都圏大曲会 幹事一覧

会長	大釜茂璋
副会長	大友律子
〃	鈴木繁
〃	築地良仁
事務局長	古宮理絵
(以下五十音順)	
幹事	大友昭三
〃	佐藤健
〃	佐藤重光
〃	田口元也
〃	富樫孝治
監査	佐藤健

首都圏大曲会 規約

第一条【総則】(運営方針)

1. スリム・シンプル・クリーンを原則とし、和やかに楽しくをモットーとする
2. 費用は受益者負担とする
3. 総会を縦軸に、趣味の会や得意(専門)分野による相互扶助(相談等)を横軸に置いて、会員間の交流を図る
4. 会報「ふるさと大曲」を発行して情報を共有し、会員の結束を図る
5. 大仙市役所を初め地元大仙市諸団体と連携を密にし、相互の発展に努力する
6. 大仙市ふるさと会懇話会メンバーとして、大仙市他地区のふるさと会との交流を深めるとともに相協力し、相互の発展・充実に期する
7. 新規事業並びに活動案は幹事会で立案し、決定は総会に諮り出席会員の多数決によって決議する
8. 首都圏大曲会の設立日は平成元年11月28日とする

第二条【構成】

本会は「首都圏大曲会」と称し、首都圏に在住する旧大曲市出身者及びその家族、大曲に由縁のある人、本会の活

第三条【総会】

総会は原則として年一回、7月に開催する。諸事情が発生した場合はこの限りではない。会長は議長として会議を進行する。総会に関わる総合の司会は、会長が任命することができるとができる

第四条【目的】

首都圏に住む旧大曲市出身者並びに本会目的・信条に賛



第13回「水辺の楽校祭」

8月6日、第13回「水辺の楽校祭」が、四ツ屋地域・玉川の松倉橋下の「水辺の楽校」で開催されました。参加数は、児童、保護者ら150人。新型コロナウイルスの感染予防策を徹底

同する人の相互親睦を図るとともに、ふるさと大仙市発展に関わる貢献を信条とする。併せて大仙市との情報の交換を通じて、相互の発展に寄与することを目的とする

第五条【事業】

原則として年一回総会を開催する。他に親睦を図るための諸活動を行う

第六条【役員】

- 運営は幹事会があたり、幹事会は次の役員で構成する
- 会長 1名
- 副会長 3名
- 事務局長 1名
- (会長・副会長・事務局長で三役会を構成する)
- 幹事 17名
- (三役、監査を含む)
- 監査 2名
- 幹事は会員の推挙及び自薦で行い、役員は幹事会の互

選とする
・三役並びに幹事は総会決議による承認を得るものとする
・任期は2年とし、再任を、妨げない
・幹事の事業担当は、総会での多数決による決議に沿って、その都度事業内容に合わせて、三役会あるいは幹事会で決定し委嘱する

第七条【所在地・事務局】

会の所在地は会長宅として、事務局は会長宅に置く

第八条【会費】

一家族一単位とし、年会費1,000円を総会時までまでに納める。会計年度は5月1日から翌年4月30日。財産の管理は事務局長が担当する

平成17年3月22日制定
平成19年3月1日一部改訂

チャイロ昼花火」を堪能しました。
10月9日(日) ————
「第13回・四ツ屋まつり」

新型コロナウイルス禍の中で「四ツ屋まつり」は、「こんな時だからまつりの灯を絶やさず続けよう」と規模を縮小しても毎年続けてきました。今年第13回を迎え、10月9日の開催に向けて、準備が着々進められています。

首都圏大曲会の会費振込み方法

「ゆうちょ銀行（郵便局）」と、「都市銀行」の2通りがあります。

首都圏大曲会に入会してご負担頂く年会費は、一家族ごとに年間千円です。ふるさとを愛しふるさと発展の貢献を信条とする首都圏大曲会の活動を維持するための大切な資金として活用されています。みな様のご理解ご協力をお願い致します。

会費の振込み方法は、総会などの集いがあればその場で受付けでお受け取りしますが、総会開催出来なかった今年は、是非「ゆうちょ銀行」や、その他の銀行を利用してお振込みください。首都圏大曲会は、「ゆうちょ銀行」と「りそな銀行」に口座を所持しています。なお、お知り合いの幹事に直接手渡されても結構です。臨時増刊発行後も、多くの会員からお振込み頂きました。

◆ゆうちょ銀行（郵便局）ご利用の場合

お近くの郵便局窓口で「振込み用紙」を貰い、会費と、左記の「記号」と口座番号を書きお振込みください。

記号 11330

口座番号 20455001（8ケタ）

◆他の銀行など金融機関をご利用の場合（信用

金庫、信用組合、農協など）

店名 一三八（読みイチサンハチ）

店番 138

預金種目 普通預金

口座番号 2045500（7ケタ）

首都圏大曲会 令和3年度（2021年）会計報告

【令和3年5月1日～令和4年4月30日】

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	178,775	通信費	58,080
年会費収入	45,000	諸印刷費	249,150
広告掲載費収入	169,230	広報費	16,724
大仙市助成金	150,000	消耗品費	23,620
		雑費	6,280
		次期繰越金	189,151
合計	543,005	合計	543,005

令和3年度 監査報告

令和3年度分の収入並びに支出について、会計帳簿及び関係書類の監査結果、適正であることを認めます。

監事 佐藤 健



首都圏大曲会 令和4年度（2022年）予算案

【令和4年5月1日～令和5年4月30日】

収入の部		支出の部	
前期繰越金	189,151	通信費	60,000
年会費収入	70,000	会議費	30,000
広告掲載収入	170,000	諸印刷費	280,000
大仙市助成金	150,000	広告費	20,000
		消耗品費	30,000
		雑費	15,000
		次期繰越金	144,151
合計	579,151	合計	579,151

思い出の中の大曲

◆資料提供
小西 國男さん

昭和25年、雄物川改修工事で タワーエクスケーターが設置された

昭和25年と言えば終戦から僅か5年。戦時中の暗い重く沈んだイメージから抜け出し人々は、「新生日本」の掛け声とともに心機一転。老若男女誰れもが、「新日本の建設」を合言葉に張り切っていた。しかし食物も着る物も、何もかも品物不足。復興のかけ声は高かったが、頼りとするものは人の手だけの貧しい時代。

当時は夏から秋にかけて、よく洪水に悩まされた。大曲の町は、雄物川や玉川に囲まれ、街

の真ん中を丸子川が流れる。それだけに、大雨が降ったり台風が通り過ぎたりした後は、雄物川などの土手の決壊など、頻繁に大洪水に悩まされたものだ。

当時の日本は戦争で経済は破綻し、河川堤防の補修なども、それと分かってはいるが、補修のための資金が廻らなかつたというのが真相だった。それは大曲の町だけでなく、各町村も大中小の河川を問わず、川はよく氾濫した。そのようなことから、人口の密集した大曲の町を守る

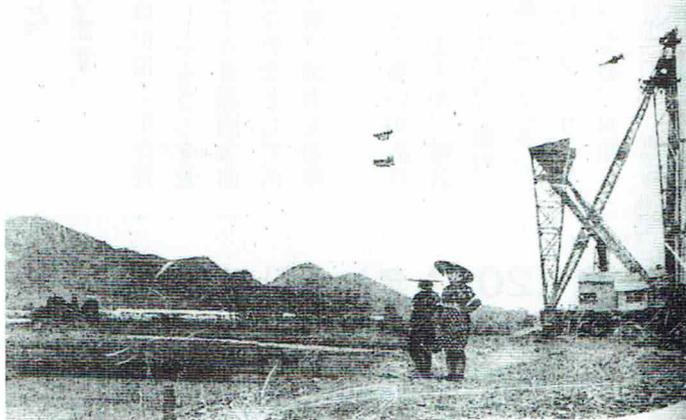
ための雄物川の河川工事は急を要した。

ここで本会報に「卒寿紀行」を寄せてくださった小西國男さんが昭和26年、秋田工業高校卒業と同時に入社した、東京の石川島重工業株式会社

懐かしい「大曲の写真」を探しています。

私たちのふるさと大曲を懐かしく振り返ることは、ふるさとを想い、ふるさと貢献につながる活動です。会員や「ふるさと大曲」読者の中で、懐かしい、当時の大曲の写真をお持ちの方は、ぜひ会報編集部までお知らせください。その場合、何を写した写真か、簡単な説明を付記してください。

ご連絡先 〒162-0054
新宿区河田町6-6 首都圏大曲会事務局
メール: info@e-prosjp.com



すげ笠スタイルの野良着の娘が往時を忍ばせる娘たちの上を、1立方メートルエクスケーターが通る

(現IHI)の社内報同年3月号から「雄物川改修用として、タワーエクスケーターを注文」とある一行を見つけてくれた。翌年に発行された別版の社内報に、26年度に製作された同社製造受注した主な機械の写真が掲載されていて、この中に「大曲橋上流に設置されたタワーエクスケーター」を探し出して、「ふるさと大曲」への掲載許可までとってくださった。

以下、小西さんのお便りから原文のまま掲載する。

『大曲市立大曲小学校発行「創立百年記録誌百年の歩み」では、昭和25年8月、雄物川改修工事）大曲橋の東側の堤防に

着手とあり、また昭和44年10月30日、雄物川捷水路の完工式。昭和28年から十七年、26億円投じた。

*タワーエクスケーター
塔状の大型掘削運搬機械のこと。昭和24年8月に、急流で知られる富山県常願寺川の改修工事にタワーエクスケーター第1号機が運転開始。これがわが国の河川工事の大きな転換期となった。従来人力によるが多かった河川工事、大型機械で一度に、大量に出来るようになった。常願寺川も、中流の川床が上昇して洪水を繰り返していたが、掘削が急速に進み、以後洪水は減少した。

編集後記

▲新型コロナウイルス禍はとうとう三年越しの秋を迎えました。第七波の事態を見るにつけても、パンデミックと化した感染症の恐ろしさや改めて感じます。新薬の開発も近いと言われていますが、特効薬の出現が待ち通しく思いますが、その前にお互いが、罹らない、移さないの意識を持った慎重な行動を大事にしたいものです。▲その中で、これも三年振りに伝統の「大曲の花火」が華やかに、かつ肅々と行われました。七月に東京で開催した懇話会で、老松市長のお話にあったように、大仙市は経済活性化とともに文化観光都市の魅力を創出し、また「彩色千輪プロジェクト」始動の中核として、花火のイメージを大切にしなければなりません。まさにSDGs未来都市の実現・充実に向けて、今年の花火大会開催は大きな意味を持つものでした。▲大仙市役所の部署訪問は、観光文化スポーツ部観光振興課を訪ねました。観光産業は今後成長産業の一つとして注目されますが、いみじくも大仙市で訪ねたいところは、国指定の名勝「旧池田氏庭園」です。写真提供など文化財課にご協力頂きました。▲会員の小西國男さんからの寄稿「卒寿紀行」―わが若き日の思い出―は戦後を生き活きと写し出されて懐かしく思う人は多いと思います。「懐かしの大曲」の写真と共に「協力有難うございます。(大釜)

パンフレット・ポスター・
冊子印刷&製本など

印刷のことなら 何でも ご相談下さい。

原材料の仕入・固定コスト等、
秋田の立地を最大限に生かし
低価格・高品質の商品を
お客様にご提供すべく、
日々精進を致しております。

首都圏のお客様にも秋田協同印刷のモットーとする
『すべてはお客様のために』を『すべてのお客様のために』!
是非お感じ下さい!
ご連絡を頂ければ飛んで参りますので、
お気軽にお問合せを宜しくお願い申し上げます。

秋田協同印刷株式会社 首都圏担当

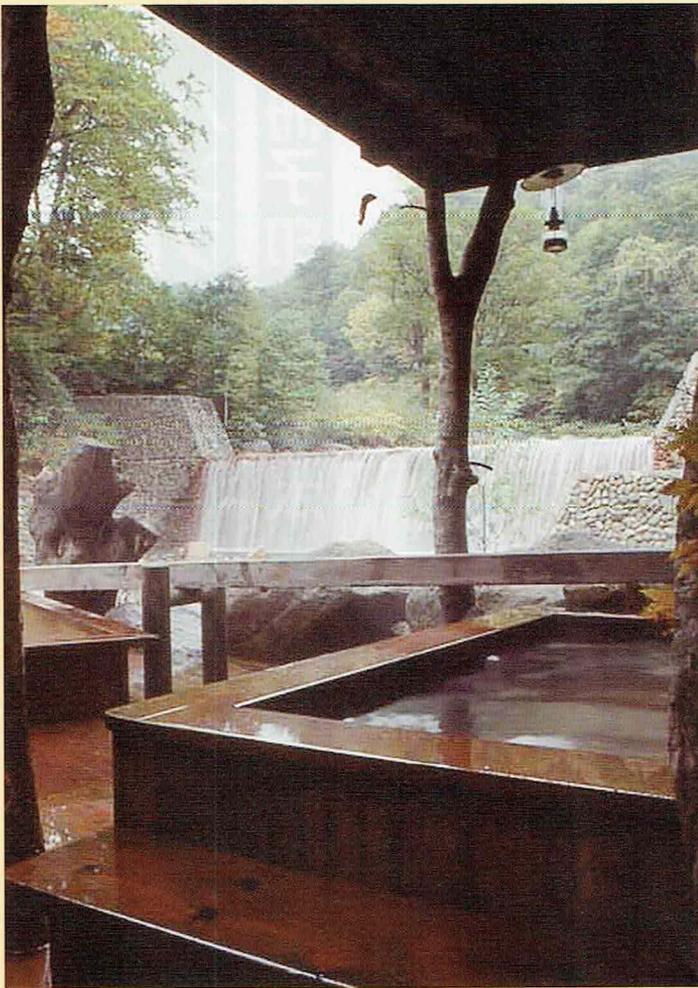
〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1丁目39-7
ライオンズステーションプラザ三軒茶屋604

TEL.050-5820-4764
FAX.03-6320-8339

憩い

安らぎ

癒しの宿



秋田・十和田湖・八幡平国立公園

ここ乳頭温泉郷は、七湯の、素晴らしい良質の宿が点在しています。中でも妙乃湯は、関西から見た東の「金泉・銀泉」の二源泉を併せ持った誇れる宿です。また、こじんまりした秘湯の素朴さ、古きに新しさのバランスを備えた趣のある宿として大変喜ばれています。

014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字駒ヶ岳2-1
電話0187-46-2740



野沢温泉
都わすれ

秋田・田沢湖・抱返り溪谷 県立自然公園

田沢湖と角館の中ほど。紺碧の湖や溪流を見ながら緑に染まる木立の道を進みます。広い敷地と周囲の山々に包まれた「都わすれ」は、客室わずか10室。全室抱返り溪谷を見ながらのかけ流し露天風呂付きという、人里離れた理想の、くつろぎの宿です。

014-1113 秋田県仙北市田沢湖卒田字夏瀬84
電話0187-44-2220